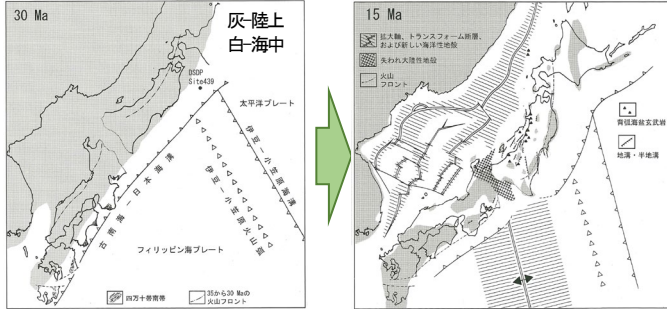


裏に続きます→

きました。また、奥羽山系の付近では流紋岩が噴出し、溶岩ドームがつくられます。そこから大量の水中軽石流が噴出し、当時の海底部分（岩手県では北上山地の西側）を覆いました。これが「グリーンタフ」と呼ばれる緑色凝灰岩帯です。

日本海の拡大はその後、約1500万年前に終了します。



古第三紀漸新世(左: 3000万年前、右1500万年前)

※2 p9,~10から引用

⑤1000万～現在 -カルデラ火山と成層火山-

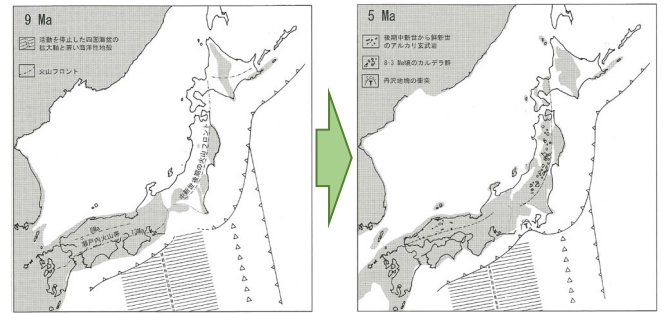
日本海の拡大後、海進1300～1200万年まで続き、その後、海退がはじまります。

約1000万年前、奥羽脊梁山脈の隆起と珪長質火山活動（石英や長石が多い火山岩・深成岩）を伴う火山活動が活発化しました。奥羽脊梁山脈の隆起にはこの珪長質火山活動が関わっていると言われています。

地表や大陸・海洋プレートは、氷山が海に浮かんでいるように、マントル（かんらん岩）に浮かんだ状態です。海に浮かんだ氷は、海中の水が多くなればなるほど、海面に出る氷は大きくなります。

奥羽脊梁山脈も同じように、マントルより比重が軽い珪長質火山活動により、珪長質マグマが奥羽脊梁山脈の地殻に付加したことで、浮力が働いたと考えられています。

また、この火山活動は、脊梁山脈を中心にたくさんのカルデラ火山を形成します。



左: 新第三紀中新世 (900万年前) 右: 新第三紀鮮新世 (500万年前)

※2 p12から引用

約300万年前、東北地方はほぼ現在のような、太平洋プレートが沈み込む場所となり、東北地方は圧縮を受けるようになります。この圧縮によって、造山運動が開始するとともに、奥羽脊梁山脈、河川低地帯、北上山地と、南北方向に延びる現在のような帯状配列になりました。

約100万年前からは、カルデラ形成活動から成層火山群の活動が主体となります。例えば、岩手山、鳥海山、岩木山などです。

新生代第四紀は、これら火山噴出物と、河川・海などの浸食による段丘の形成、土石流や氾濫による河川堆積物の堆積（扇状地など）が進行していき、現在の岩手県の地質・地形がつけられました。

おわりに

いかがだったでしょうか。地質的な事件・偶然の積み重ねで今の日本（岩手）が出来たと思うと、中々感慨深いものがあります。

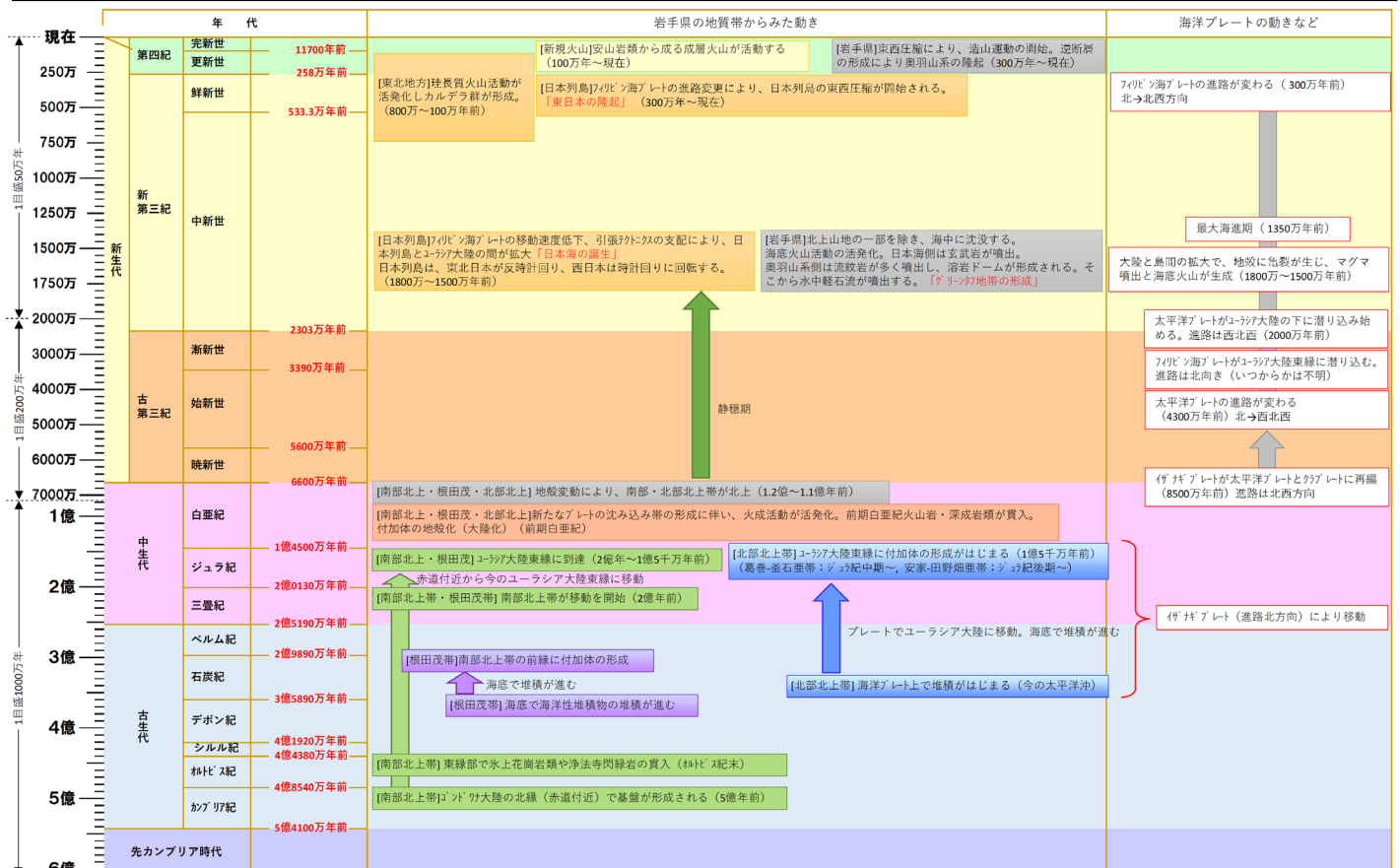
地質や地形は気候（氷河期）などの影響もありますが、文面の都合上今回は省きました。また、簡単に記載している部分や、例えば違う部分があるかもしれませんが、ご了承をいただければ幸いです。

参考文献 ※1『建設技術者のための東北地方の地質(社)東北建設協会(平成18年9月)』

※2『最新 東北の地質(一社)全国地質調査協会連合会(平成26年9月)』

[年表]岩手県（日本列島）の地盤の歴史

※1, ※2を基に筆者が作成



(発行) 株式会社 昭和土木設計 (岩手県紫波町矢野町流通センター南4丁目1番23号 Tel019-638-6834 Fax019-638-6389)

弊社は道路・河川・橋梁等の計画・設計、BIM/CIM、i-Construction、GIS、ITソリューション等の業務を行っております。
なんでもインフォのバックナンバーは <https://showacd.co.jp> をご覧ください。